経営情報研究
第 28 巻第 1・2 号（2021 年 2 月）, 151 ページ

佐藤正志先生の足跡

摂南大学経営学部教授・前学生部長・スポーツ振興センター長・元経営学科学科長の佐藤正志先生は、2021 年 3 月にご退職の予定です。

佐藤先生は、1980 年 3 月に広島大学大学院・経済学研究科修士課程修了後、郷里の徳島で高校教員として奉職の傍ら地方史の第一人者であった三好昭一郎先生の指導を受け、徳島の近現代史全般とくに経済史・産業史分野の研究に取り組まれました。

その後 1989 年 4 月から九州共立大学経済学部に講師として着任し、その後本学部の教員であった井奥成彦先生（現 慶應義塾大学福沢研究センター所長）との出会いが縁となり、1995 年 4 月に摂南大学経営情報学部に助教授として着任されることになりました。着任後、学部にあっては経営情報学科長また経営学科長を計 4 年間にわたって歴任され、全学的には、入試副委員長・学生部長・スポーツ振興センター長を務められています。

佐藤先生は、本学部が経営情報学部から経営学部へとかわり、経営環境学科が廃止されて経営学科が創設された当時の学科長であり、また 2008 年の「留学生 30 万人計画」に従い本学でも留学生受け入れを推進した時代､精力的に留学生の指導を引き受けて下さいました。更には、研究機関としての大学の存在意義を明確にし、経営学研究科後期課程の設置にも指導的な役割を果たされました。

一方教育面では、キャリア教育の一環として産業界の実体を各専門分野の教員がオムニバス形式で講義し、最後に工場見学をするという実践教育である「経営事例研究」を企画・準備され、学部教育にも尽力されて研究・教育の幅広い分野で本学部を支えてこられました。

佐藤先生について特に印象に残っているのは、研究に対する真摯なお姿です。佐藤先生が 2004 年に経営情報学科長に就任されて間もなく、すでに退職されていた中村元学部長とお会いする機会があり、佐藤先生の学科長就任をお伝えすると一言「気の毒だな・・・佐藤先生は本当に研究が好きで、研究したいから大学教員になったのに・・・」と、学科長の業務に追われて研究に割ける時間が削られる身の上を気の毒がられていたものでした。

佐藤先生は、両大戦間及び戦時期の日本経済の構造変化をテーマに研究されてきましたが、一方で徳島の地方史研究も一貫して続けてこられました。小作争議から「協調組合」「出荷組合」に注目し、戦前からマーケティング活動が行われていたことをあきらかにするなど、徳島の地域史研究に取り組んでこられたのです。

歴史研究は、史料を収集し・読み解き・断片をつなぎ合わせて分析していく、非常に地道な作業の積み重ねの上に成り立つものであると門外漢なりに私は理解しています。

先生の教育・研究に取り組む姿勢は、まさに長期的視点にたって地道な努力を積み重ねていくというものでした。学部として、先生のこのお姿に学び、目先の利益に惑わされることなく、日々努力してゆきたいと改めて思う次第です。